

# 授業科目 評価学演習 II

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
押木 利英子、星 孝、地神 裕史		開講時期	後期	必修選択	必修
古沢 アドリアネ 明美、菅原 和広		単位数	2	時間数	60（発達障害：20）
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○		◎	
【概要・一般目標：GI0】					
<p>中枢神経系評価学 I で修得した運動発達に対する知識を保育園実習を通して実際に正常児とかがわかる中でその多様性を学ぶ。さらに理学療法評価の応用力を高めるために、理学療法の領域（発達障害：脳性麻痺児、ダウン症児など）を想定した検査測定評価の「思考」と「技術」を練り上げる。</p>					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常・異常運動発達を模倣し、理解できる。</li> <li>2. 姿勢反射・各種発達テスト・基本姿勢・動作の観察と分析ができる</li> <li>3. 必要な情報を収集し、それに基づいた検査測定項目を列挙し実施できる。</li> <li>4. 学生間で学びあひながら自主的、計画的に共同作業に取り組むことができる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	正常・異常運動発達（0～6m）		1	演習（グループ）、担当：押木 利英子	
2	正常・異常運動発達（7～12m）		1	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
3	粗大運動の発達		1	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
4	各種発達テストの手法と実際		2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
5	保育園実習（健常児の運動発達の評価・分析）（1）		3、4	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
6	保育園実習（健常児の運動発達の評価・分析）（2）		3、4	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
7	各種反射テストの手法と実際		2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
8	各種バランステストの手法と実際		2	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
9	発達的アプローチの基本手法の応用（1）		2,4	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
10	発達的アプローチの基本手法の応用（2）		2,4	演習（グループ）、担当：押木 利英子 他	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		小児理学療法テキスト	田原弘幸、大城昌平、小塚直樹 他	南山堂	2010・4,200円＋税
		乳児の発達の見方のエッセンス	吉岡 博	診断と治療社	1,400円＋税
参考書		理学療法評価学テキスト	星 文彦、伊藤俊一、益子原秀三	南江堂	2010・5,700円＋税
		理学療法テクニック ～発達の アプローチ～	小林武、鈴木誠、竹田涼子	医歯学出版 KK	2004・4,700円＋税
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
出席、小テスト、レポート、実技試験、その他		トレーニング・ウェア上下など動きやすい服装で参加する。 実技は繰り返し練習すること。			